
待対的自由至上主義の財富観と 陰陽合徳

大巡思想の循環的経済観と待対的自由至上主義の財富観
、そして陰陽合徳の原理と現代的意義を考察す
る

発表概要

- 1 大巡思想の循環的経済観
- 2 自由至上主義の財富観の理論構造
- 3 市場均衡論と経済倫理
- 4 既存の自由至上主義の限界
- 5 陰陽合徳による代案
- 6 典経の事例分析
- 7 結論および示唆点

大巡思想の循環的経済観

大巡思想は、万物の相互作用と循環、陰陽合徳の原理を通じて、経済と倫理の調和的发展を追求する。

大巡思想の循環的経済観は、経済学と倫理学の関係においてよく表れており、個人主義と全体主義、理論と実践の相互補完的循環を強調する。

兜率虚無寂滅以詔（兜率虚無寂滅以詔）といって、自由至上主義、社会契約主義、功利主義、共同体主義の淵源といえる儒教、仏教、道教を、春・夏・秋・冬のようにすべて統率し循環させることができこそ、個人と社会が发展できるとする。

表3.9 待対的自由至上主義の財富觀の循環構造

経済学と経済倫理は相互に待対的な関係にあり、循環的構造をなす。

方法 \ 価値	個人主義		全体主義	
	善（善）-制度内の秩序	正（正）-制度の基礎構造	効率	徳
経済学（理論）	⑥市場均衡論（理論経済学）			③制度進化論（歴史学派経済学）
経済倫理（実践）		①自由至上主義（自由）	④功利主義（効率）	⑤共同体主義（徳）
		②社会契約主義（正義）		

循環的關係：自由至上主義（①）→ 社会契約主義（②）→ 制度進化論（③）→ 功利主義（④）→ 共同体主義（⑤）→ 市場均衡論（⑥）



個人と社会が陰陽合徳の関係をなすとき、自由至上主義の理想である市場均衡に到達することができる。

既存の自由至上主義の問題と限界

自由至上主義は本来、制度の基礎構造を改革しようとする趣旨から始まったが、次のような根本的限界を示している：

- 1 過度な自由の尊重による経済のギャンブル / カジノ資本主義化
- 2 制度の基礎構造を変える自由の実現の限界
- 3 理論経済学の市場均衡論の限界のなかで、体制内の自由のみを模索

「自由至上主義の要点は、自身の自由をどれだけ拡大できるかという問題に帰結するとき、過度な自由尊重による経済のギャンブル / カジノ資本主義化が問題である」

陰陽合徳による解決方策

陰陽合徳の待対性に基づく自由至上主義は、過度な自由尊重によるギャンブル資本主義の限界を克服する：

- ① 個人の自由と社会的責任の調和 — 陰（個人）と陽（社会）の合徳を通じて自由と責任が均衡をなす
- ② 健全な自由の持続的循環 — 万物が循環する体系のなかで自由の本質的拡大を追求する
- ③ 多方向的な自由の拡張 — 社会契約主義、功利主義、共同体主義へと自由の領域を健全に拡大

「大巡の循環的経済観においては、自由至上主義の財富観に対する代案として、陰陽合徳に基づく待対的自由至上主義の財富観を提示し、自由至上主義本来の制度改革の趣旨を活かしつつ健全な自由拡大を実現する。」

待対的自由至上主義は、陰陽合徳の原理を通じて、個人の自由と社会の公共性が循環的に互いを強化する関係へと発展する。

『典經』(『典經』)の事例分析



陰陽合徳による自由回復の実際的事例

経済倫理	自由の必要性	陰陽合徳による自由の回復	自由回復に関する『典經』の一節
自由至上主義	賭博資本主義	偶然性を法則で代替	ユンノリの賭博も一心であれば成る（権之1章18節）
社会契約主義	倫理的虚無主義	死後にでも陰陽合徳が成ることを確認	死して善くなり朝鮮の冥府となる（教法1章2節）
功利主義	勝者総取りによる自信の喪失	一心であれば成功	成らぬだろうという思いを抱くな（教法2章5節）
共同体主義	力ある仲間の裏切りに対する無力感	弱者の力の結集	男将軍のみあらんや。女将軍もあるなり（権之1章17節）
ギャンブル資本主義の克服 賭博にも陰陽合徳の理があることを悟らせ、賭博への未練を捨て、真の内面の自由を拡大する		倫理的虚無主義の克服 世に対する義務を尽くし裏切られた場合にも、死してまで自由が拡大される陰陽合徳の方法を提示	競争激化の克服 勝者総取り社会においても一心であれば必ず経済的成功が可能であることを強調し、自由への意志を高揚
			共同体の回復 力なき個人であっても陰陽合徳の原理で心を合わせれば、不利な契約を克服し自由を回復することができる

結論：大巡思想の事例は、経済動機の再生と自由の回復が陰陽合徳の待対的關係を通じて成就されることを示している。

結論および意義

待対的自由至上主義の財富観は、大巡思想の陰陽合徳の原理を基盤に、経済学と倫理学の循環的關係を提示する。

陰陽合徳による個人と社会の調和は循環的経済観の核心であり、既存の自由至上主義の限界を克服する代案となる。

主要な意義

- 健全な自由拡大方策の提示 ギャ
- ンブル資本主義克服のための理
- 論的基盤 経済倫理の循環的实践
- 可能性の提示 伝統思想と現代経済理論の融合的接近

待対的自由至上主義の財富観は、個人の自由と社会的責任が陰陽合徳する新たな経済パラダイムを提示することで、現代社会の経済的問題に対する代案的解決策となりうる。